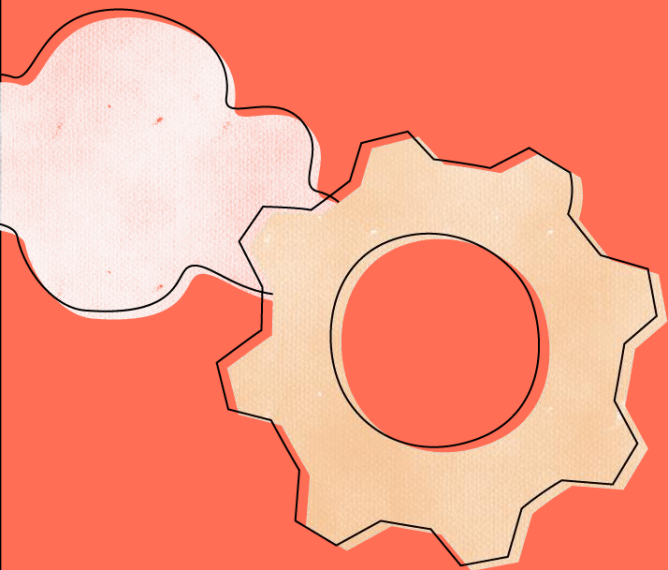
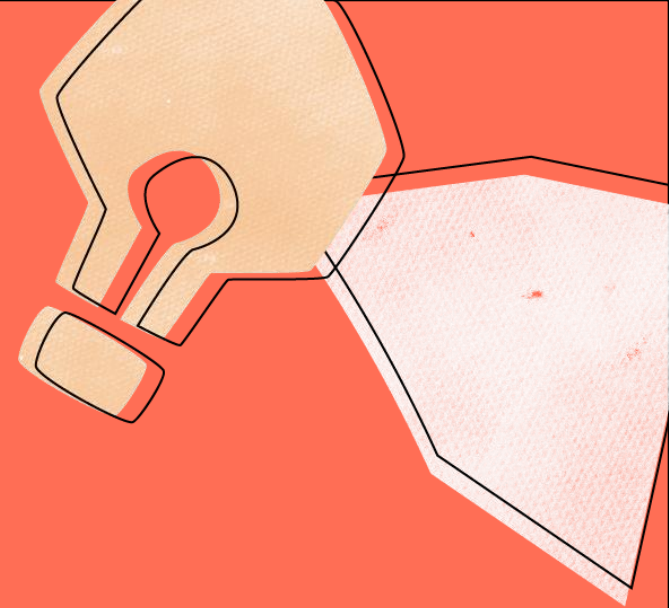


ダイハツ工業株式会社

ダイハツ工業

DXへの取り組み



人にやさしい
みんなの
デジタル

DAIHATSU DIGITAL TRANSFORMATION

DX

- 01 DXビジョン
- 02 DXビジョンハウス
- 03 DXを進める全社組織体制
- 04 DX人材育成
- 05 風土改革
- 06 デジタル化に向けたIT環境整備
- 07 セキュリティ対応
- 08 DX推進に係る成果・進捗指標

急激な環境変化に柔軟かつスピーディに対応し、競争力を強化しつつ将来へ成長するためには、デジタル技術活用は必須です。組織体制を新たにすると同時に、「DXビジョンハウス」を策定しました。

ダイハツのDXが目指すこと

日本のみならず、グローバルに「お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする」ために、デジタルを活用し、大きな変革を進めています。

クルマは「所有」から「使用」へのシフトが進んでおりますが、デジタル技術は「人、クルマ、交通環境」を結びつけ、新たな価値を提供するための基盤となります。

この変革において、私たちは製品だけでなく、人、外部環境、そして社内外組織・プロセス全体をシームレスにデジタル化していく必要があります。

特に、開発、生産、販売、共通業務などの各プロセスを全面的にデジタル化し、迅速かつ効率的にダイハツらしい車を提供することを目指しています。

この取り組みは、アジアや中南米など、主に新興国におけるグローバル競争力を高めるための基盤となります。

社内外の迅速なコミュニケーションも、変革を成功に導く重要な要素です。

私たちはSNSなどを活用し、世界中の人々に向けて、ダイハツのビジョンを発信し続けます。

また、社内においても、新たな情報共有システムを導入し、

組織を跨いで社員間の連携を強化し、デジタル変革をさらに加速させていきます。

この変革の波に乗り、ダイハツらしい価値を提供し続けるため、

皆様と共に新たな時代を切り開いていくことを目指しています。

共に未来を創りましょう。



代表取締役社長

INOUE MASAHIRO

井上 雅宏

DXビジョンハウス

DXビジョンハウスを実現するDX推進戦略として、「モノづくり」「コトづくり」「ヒトづくり」の3テーマにおいてDX1・DX2・DX3の3本柱を、ボトムアップとトップダウンの両輪でアジャイルに取り組み、「従業員の幸せ、お客様や地域の豊かな暮らし」=「人にやさしいみんなのデジタル」を実現します。

DXビジョンハウス



3本の柱は同時にアジャイル推進

DX推進の3本柱

DX1 デジタルを広める (デジタイゼーション)

これまでアナログで行っていた業務を積極的にデジタルに置き換え、データによる見える化を促し業務の効率化・生産性向上を図る。

ダッシュボード
経営

ドキュメント
デジタル化

DX2 今を強くする (デジタルイゼーション)

AI/BI/MBDなどのデジタル技術を活用し、徹底的なムダの可視化・既存業務の改廃や電動化やコネクトを始めとした商品強化を推進、お客様ニーズに応える商品・業務プロセス強化に繋げる。

コネクトデータ
利活用

バーチャル
デザイン評価

モデルベース
開発

DX3 未来をつくる (デジタルトランスフォーメーション)

デジタルアプリケーションの活用で、ダイハツ・事業者様・関連業者様・お客様がデータで繋がり新しい価値・新しいコミュニケーションを産み出し地域の活性化に貢献していく。

新しいコト
ビジネス

お客様向け
アプリケーション

新しいモビリティ
サービス

マイクロ
グリッド※

※マイクログリッド：「分散型電源」
将来の電動化で、電力需要の増加が予測される。ピーク電力の平準化のため、AIで電力需給予測を行うなどの仕組みを検討。

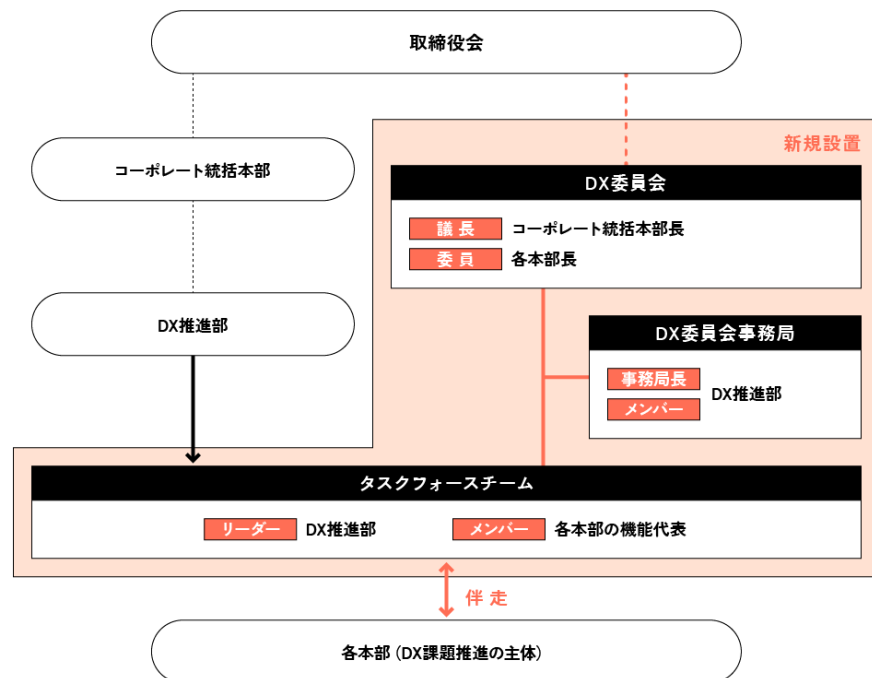
DXを進める全社組織体制

DXビジョンハウスの実現に向け、取締役会の監督の下、DX推進に係る意思決定を行う「DX委員会」と各本部の機能代表からなる組織横断型の「タスクフォースチーム」を設置し、各本部のDXプロジェクト推進を加速します。また、DXとITが連携しDX推進に係る課題解決に取り組みます。

DX推進体制

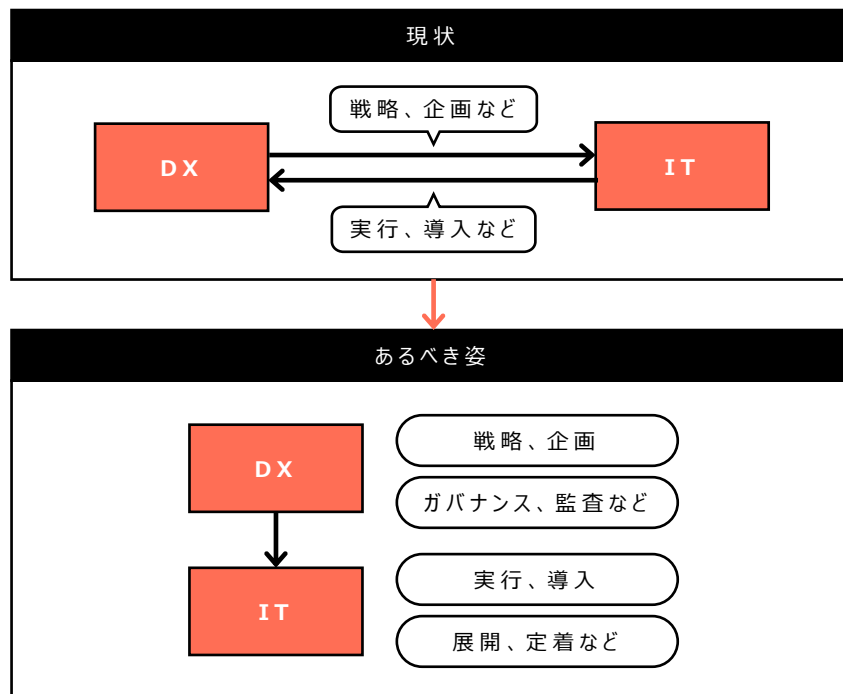
「DX委員会」は各DXプロジェクトの進捗確認及び課題に対し迅速に意思決定するため定期的開催。

「タスクフォースチーム」は各DXプロジェクトの推進マネジメントを実施。また必要に応じ特定領域において強みを有する外部企業と連携。



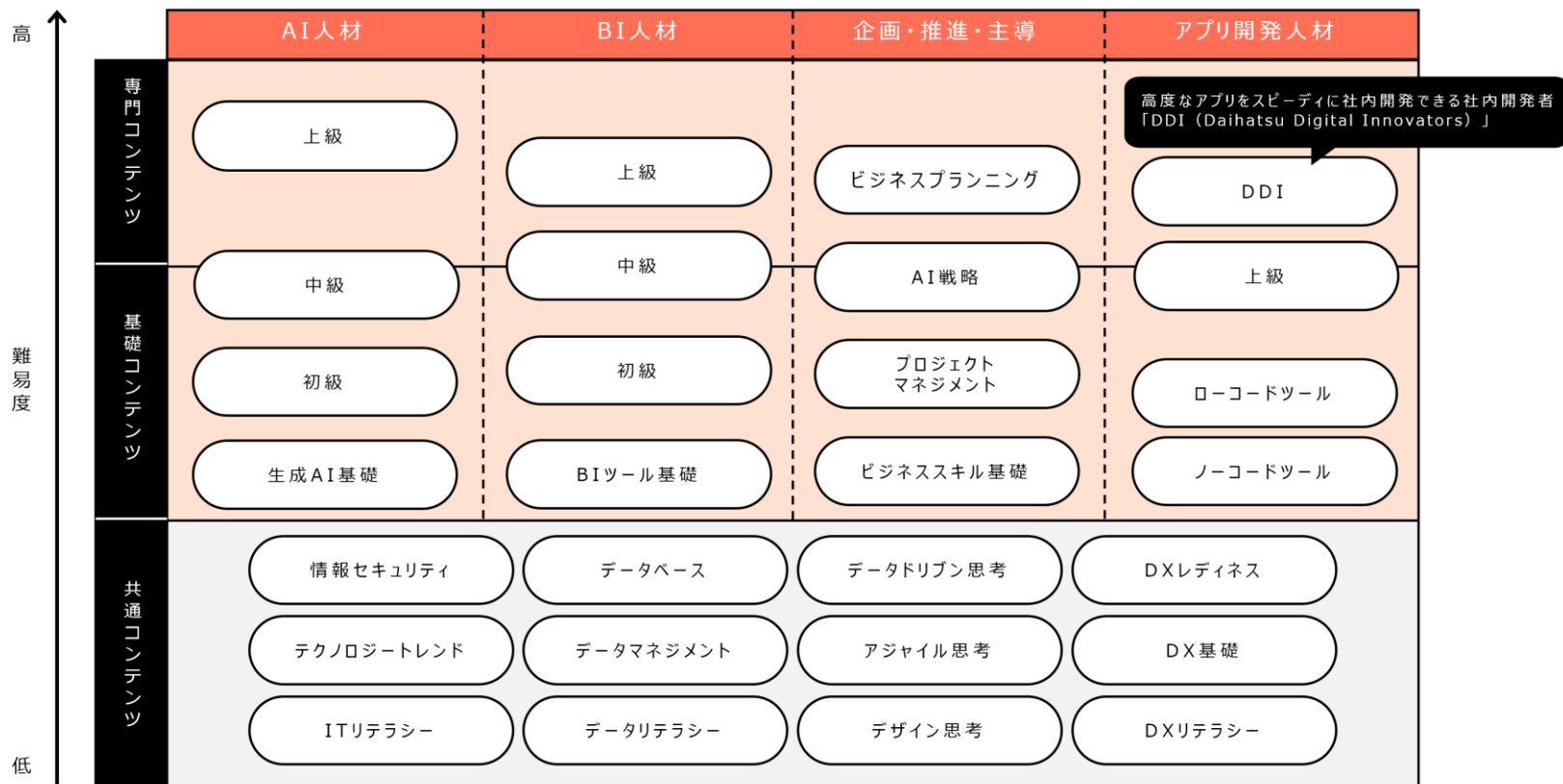
DXとITの役割

DX推進において今後はDXとITが連携しながら、DX推進に係る各課題の解決に取り組みます。



DX人材育成

2020年からのAI人材育成に加えてBIツール活用やアプリ開発ができるDX人材を2025年度までに1,000人育成する目標に対して、早期に達成しました。さらなる競争力強化に向けて、2027年度までに3,000人を目指し、最終的には全社員がデジタル技術を活用できるように取り組んでいきます。



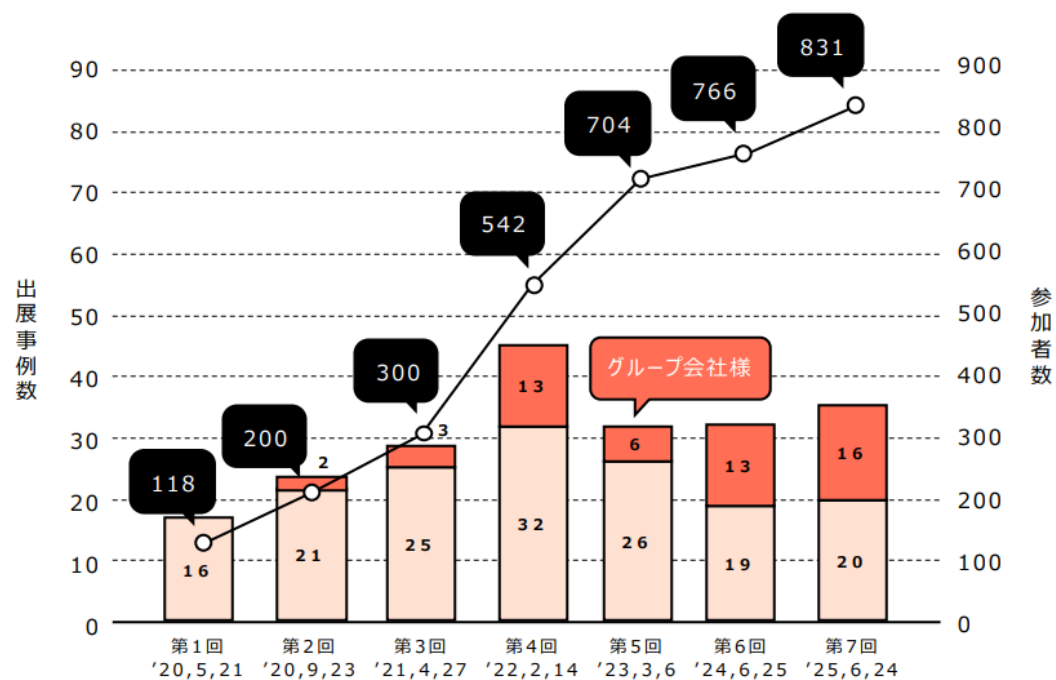
独立行政法人情報処理推進機構が公開している「デジタルスキル標準 ver.1.0」の5つの人材類型に置き換えると、AI人材とBI人材はデータサイエンティスト、アプリ開発はソフトウェアエンジニア、企画・推進・主導はビジネスアーキテクト/デザイナーとなる。

全社的なDX推進の機運を高めるため、グループ会社と一緒に「DX活用事例共有会」を実施しています。

「DX活用事例共有会」

グループ内でDX活用事例を共有、リアルな場とオンラインによるハイブリッド型で実施することで参加者数は毎年増加しています。

実施結果



「DX活用事例共有会」の様子



風土改革

DXやAI活用に関する最新情報・アイデアが得られるよう、ゲスト講演と社内優良事例紹介の二部構成からなる「ダイハツAIキャンプ」を継続して実施しています。

「ダイハツAIキャンプ」

ダイハツAIキャンプはDXやAIに関する最新情報やアイデアを共有しナレッジの横展開やAI導入の推進を目指す社内コミュニティ。2022年3月から毎月オンラインイベントを開催し、毎回200人以上の参加者がいます。また、Teamsへの参加者も2,000人を突破しました。イベントのゲストもますますパワーアップし、製造業を飛び越え他業種・他ジャンル、そしてインフルエンサーなど注目の登壇者が続いています。

参加者数

30回までの
累計参加者数

6,505人

30回までの
平均参加者数

216人

Teams
コミュニティ
参加者数

2,304人

「ダイハツAIキャンプ」の様子



AIキャンプレポート発行中



風土改革

社員のデジタルへの取り組み・学習促進のツールとしてオープンバッジを配布しています。

表彰制度は、DX推進において、先進的な案件に取り組み、優れた活動を行った社員を表彰する社内アワードです。また認定制度は、DX人材育成の専門コンテンツを修了した社員にオープンバッジを贈呈しています。

表彰制度・認定制度

デジタルリテラシーを高める意識付け、動機付けとなり、社内のバッジホルダー同士の情報共有にも繋がっています。

表彰制度



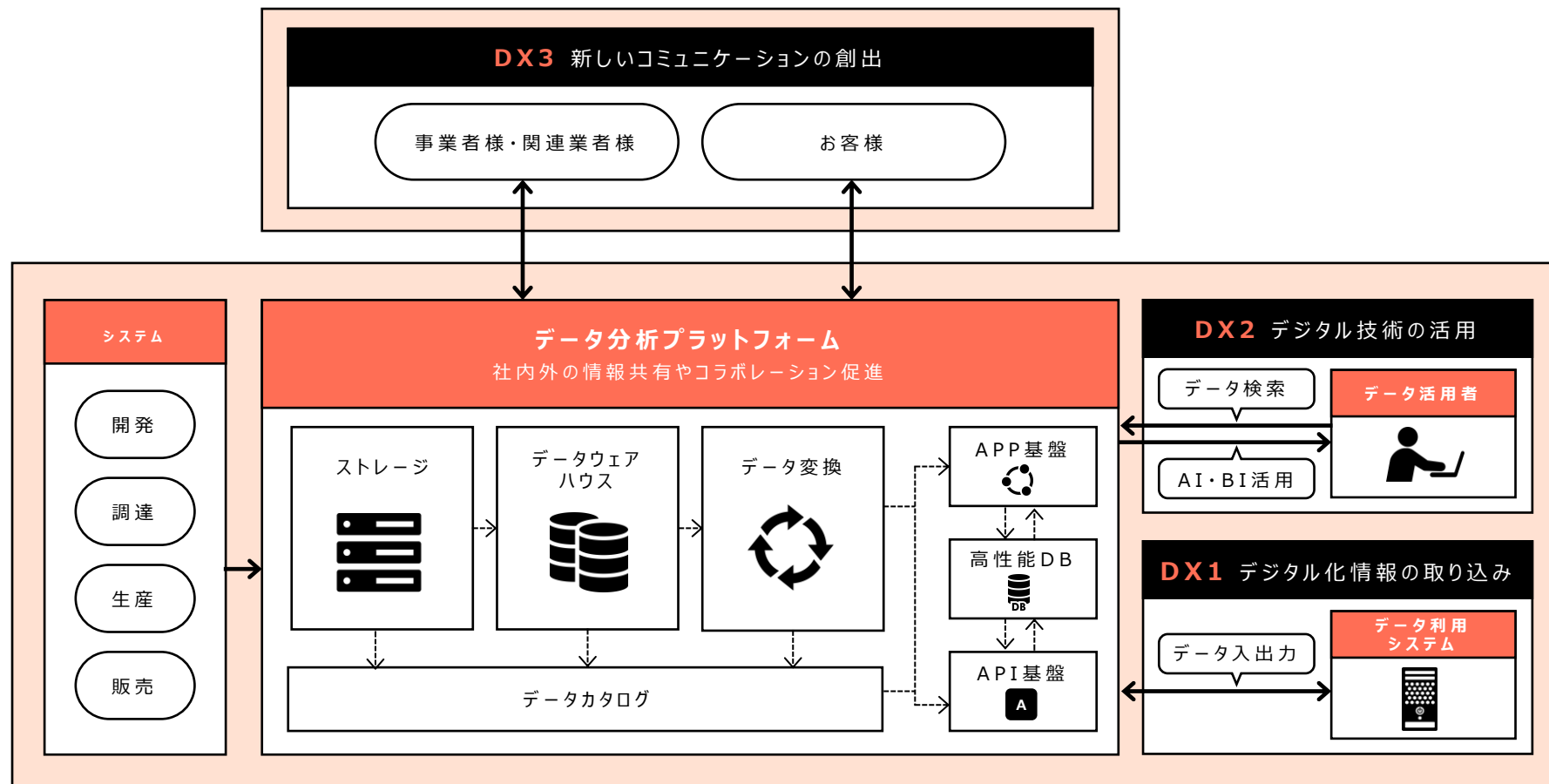
認定制度



デジタル化に向けたIT環境整備

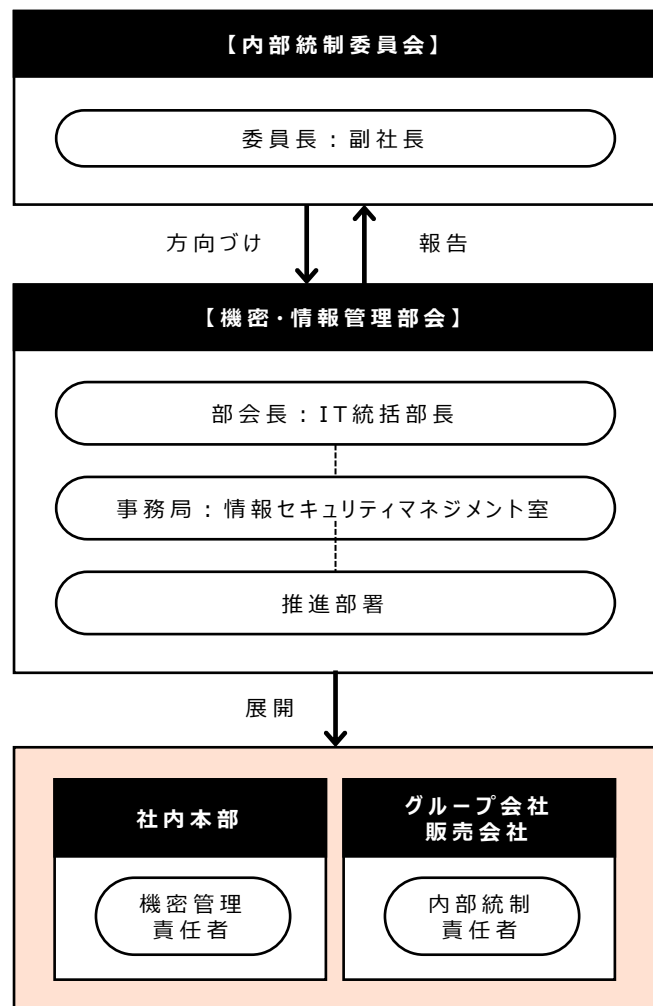
必要なデータを必要な時にすぐ使える環境整備としてデータ分析プラットフォームの構築を進め、データの一元管理、リアルタイムな分析と可視化、データを用いた予測と洞察、データ駆動型の判断などによりビジネス上の意思決定をより迅速かつ正確に行い、社内外の情報共有促進により生産性・収益率向上に繋がります。

データ分析プラットフォーム構築と活用のイメージ



セキュリティ対応

お客様にご安心頂き、安全なサービスを提供するためにも、情報の取り扱いには十分に配慮してまいります。また、私たちはプライバシーを第一に考え、お客様に喜ばれる製品やサービスを実施するよう取り組んでいます。



セキュリティ対応の体制

「内部統制委員会」は企業価値の向上・財務報告の信頼性確保・法令遵守および機密管理強化などを目的とし、セキュリティ対応など方向性を議論しています。「機密・情報管理部会」は必要に応じセキュリティに係る規則やガイドラインを制定し、社内各本部やグループ会社などへ展開しています。

情報管理の考え方

情報セキュリティ

当社は、情報セキュリティが事業継続の重要な基盤であるという認識のもと、機密となる情報・製品・施設の管理ルールを周知徹底しています。ルールを徹底するため、従業員に対し、入社時の研修など情報セキュリティ教育を実施しています。また、情報セキュリティ強化月間を設定し、最新の情報漏えいの事例などを共有することで従業員の情報セキュリティ意識を高め、機密漏えいの防止に努めています。

個人情報の保護

当社は、事業を通じてステークホルダーの方々から頂いた大切な個人情報を守るために、プライバシーポリシーを定めて適切に管理しています。プライバシーポリシーは、個人情報保護法の改正に応じて常にアップデートしています。個人情報保護の取り組みとして、監査の実施、適切な委託先の選定、個人情報保護の覚書の締結などを行っています。このような取り組みにより、2021年度における個人情報の漏えいはありません。

[WEB: プライバシーポリシー](#)

DX推進に係る成果・進捗指標

DX推進に係る成果・推進指標（KPI）を設定し、DXの推進状況を確認・点検することで、各本部のDX推進を支えてまいります。

	KPI	KPIの考え方
デジタル活用	【DX1】 社内規定ドキュメント数に対する デジタル化対応ドキュメント数	DX推進を通じて、AIやBIツール活用などの デジタル活用比率の増加を目指す。
	【DX2】 社内部署数に対するAI・BI活用部署数	
	【DX3】 新しく産み出した お客様・取引先様とのコミュニケーション数	
データ分析 プラットフォームの 構築	プラットフォームを活用した部署数	部署毎に必要な情報を整理し、データマネジメント することにより、活用比率の増加を目指す。
DX人材育成	DX人材の育成人数	DX人材（AI活用・BIツール活用・アプリ開発人 材）を2027年度までに3,000人の育成を目指す。
風土改革	DX活用事例の共有件数	DX活用事例の共有を目指す。